第４回かながわ感動介護大賞

～ありがとうを届けたい～

受賞作品

かながわ感動介護大賞実行委員会

はじめに

先日、介護の勉強をしている学生と話しをしたときのことです。

「介護の仕事で何が一番大切と教えられましたか?」と伺いますと、「介護技術も大切ですが、コミュニケーションをとることが大切だと教えられました、特に声かけです。」と答えがかえってきました。

接客業、販売業、教育関係のお仕事のみならず、コミュニケーションをとることが大切な仕事は世間にいっぱいあります。その中で介護の仕事が特にコミュニケーションを大切にしていると言われるのは何故でしょうか。

介護を受ける方の中には、言葉をうまく発することができなかったり、精神的にもつらい思いをしている方が多数いらっしゃいます。

介護の仕事をしている方々は、言葉にならないご利用者のニーズや思いを的確に受け止め、支援をしています。

相手が語らなくても積極的に声をかけてコミュニケーションをとり、笑顔を引き出す、介護の現場では、このようなほのぼのとしたエピソードがあふれています。

今年度で第4回目を迎える「かながわ感動介護大賞」、そのスタートから多くのスポンサー企業、協賛企業、協賛団体、協賛法人の協力を得て実施してまいりました。この多くの皆様とともに、県民とともに現場の感動介護のエピソードを共有し、まだまだ知られていない介護の魅力を知っていただく場としてこの大賞は大変意義深い場であると言えます。

介護のイメージが変わり、皆さんとともに介護が笑顔の「介護文化」として定着していただきたいと期待しています。

かながわ感動介護大賞実行委員会委員長　篠原　正治

目　次

○受賞作品

最優秀賞	日々を大切に	……	1
優 秀 賞	正月だけの神社	……	3
	私の体験	……	5
	立派な煮豆の完成	……	7
	笑顔の中にあるもの	……	9
	入浴サービスありがとう	……	11
佳　　作	息子の結婚式にでられた！	……	13
	介護の真髄	……	14
	生きていくこと	……	15
	心に残る介護	……	17
	「おつかれさん」	……	19
	短歌	……	20
	小さな出来事でも感動	……	21
	父への恩返し	……	22
	笑顔と笑顔	……	23

○第４回かながわ感動介護大賞　応募作品の総評　25

○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿
○かながわ感動介護大賞実行委員会
○かながわ感動介護大賞協賛法人

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。
※介護を受けたご本人・ご家族以外からの受賞作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。

最優秀賞

「日々を大切に」

中嶋　清子　様

感動介護を行った事業所　株式会社T&Hサポート　おうちDE介護

「おはようございます」と、明るい声でスタッフが迎えに来ました。母の手を添え、「はい、3歩で段差がありますので気をつけてください」と、笑顔で対応してくれます。今日も元気な母の一日が始まります。

85歳の母は、2年前までは認知症の父の介護をしていましたが、視力が悪化し、わずかな光だけしか感じることができなくなり、そのため家事もままならなくなりました。振り返ると、30年前から糖尿病、膝や腰、白内障、緑内障といろいろ患ってきましたが、いよいよ身のまわりのことが自由にできなくなったときに、デイサービスを紹介され見学に行きました。見えないことで周りの様子がわからない、相手の表情が読みとれない、どんな物があるかわからないので転倒しないか、皆さんと一緒の行動がとれずスタッフに迷惑をかけるのではないか等、いろいろと母なりに不安を抱えていましたが、お話を聞いて家庭的な雰囲気と、母と同じような状況の方も元気で通って来ていることを知り、安心したようでした。

1ヶ月が過ぎた頃、母が好きだった手芸のことをスタッフが知り、丁寧に教えていただき巾着を縫ったのです。出来上がった作品を見て感動しました。母も、もう縫い物はできないとあきらめていましたが、

手が覚えていてやればできると意欲を引き出してくれたスタッフに感謝です。その後も、ティッシュカバー、マフラー、鉢置きのイスなど時間を少しずつかけながら作品を作ってきました。

先日、母がズボンのすそのほつれに気づき「針と糸を持ってきて」と、自分で縫おうとしたのには驚きと、同時にうれしかったです。スタッフが母に寄り添い、出来ることを見守り、さりげなく支援してくださっていることがわかりました。

また、月に1回発行しているお便りがあります。その中で「今月の元気の素」というコーナーがあり、デイサービスに通っている方の紹介があります。私が読むと「あの人だわ、一生懸命運動していたのでよかった」と、来ている方の様子が母なりにわかり、共感もできるので、母との会話が弾みます。

デイサービスのスタッフや、通ってきている方たちとの出会いとつながりに感謝し、これからも、今までどおりできることに喜びが生まれ、応援してくださっていることを母も感じとっているのではないでしょうか。

▽講評△

「日々を大切に」には、加齢に伴いさまざまな病気や障害により身の回りのことができなくなったとしても、その人の可能性を見つけ挑戦する機会を作り出してくれた介護職員の姿。その機会を生かし、少しづつ変化していくお母様の様子に感動した体験が綴られています。中嶋さんの「ありがとうを届けたい」という気持ちがあふれ出ている作品でした。そして、介護は、老いや病気、障害等によって中断された人生を、再構成できるよう支援する大切な仕事だと教えてくれています。

優秀賞

「正月だけの神社」

感動介護を行った職員

社会福祉法人八寿会
特別養護老人ホームみどりの園　二階介護職員
石塚　保夫　様

寒さが厳しい時期、正月の初詣を施設入所の全利用者が行える様にと、二階の一室に、長寿八幡宮という名前の神社が作られた。

素材は、ダンボール、発泡スチロール、紙等だが、鶴岡八幡宮をモデルとして、職員が一丸となって作った八幡宮で、祠の中には、鶴岡八幡宮より頂いた天照大神のお札が祀られており、鳥居、鈴、賽銭箱、絵馬やおみくじも備え、周りには絵馬を掛ける柵やおみくじを結ぶ枝木も置かれた、中身も外観も立派な神社である。

妻は、製作途中の神社を見るや、ベッドの脇に五円玉を二個早々に置いた。

それを見た介護士の方に、「何これ、お賽銭？もう用意しているの！」と笑われた。

元旦になり、車椅子に乗せて長寿八幡宮へ初詣に向かった、外の寒さもなく、階段も砂利もなく、車椅子でスイスイと移動出来、介護する者に取っては有難い参道だ。

鳥居を潜り、自分で鈴を鳴らし、用意していた五円玉を賽銭箱に投げ入れてお願いをした。

その後、介護士の方に手助けしてもらっておみくじを引き、不自由な手で絵馬も書いた。

文字にならず、何と書いたのか解らない絵馬だが、自分で大事に掛かげて微笑んでいた。
人に迷惑を余り掛けずに、自分の力で一通りの参拝が出来たのが嬉しかったようだ。
職員の努力によって正月に現れた神社は、体の不自由な人も手軽に出かけられ、色々と備わっていて皆さんが楽しめられて良かった。
正月が過ぎた、神社は来年まで一旦雲隠れとなったが、色々な願いを叶えようと見えない所で頑張っているのだろう、そして来年には、より多くの人に崇拝されている事と思われる。

▽講評△

寒さ厳しい正月の初詣を入所者全員が楽しめるようにと、職員が特別養護老人ホーム内に神社を出現させた動向をめぐるいきいきとしたやりとりと風情が描かれた佳作作品である。
二階の一室に長寿八幡宮の素材は、ダンボール、発泡スチロール、紙製で、鎌倉八幡宮モデルらしく、鳥居や鈴、賽銭箱、おみくじなども備える本格仕立てであった。出来上がればお賽銭を用意し待つ者も。多くが“いくつ寝るとお正月”の待つ喜びも味わったであろう。
砂利道での苦労もない参詣は介護者にとってあり難いなら、自分で一通りの参拝ができたことが利用者にはひとしおのようだという。にわか神社が生んだドラマは希望へと続く。

優秀賞

「私の体験」

中川　光子　様

感動介護を行った事業所　医療法人社団景翠会　けいすいケアセンター逗子

この度私が骨折で入院したにも拘わらず、思いのほか早く我が家に帰る事が出来た。日ごろお世話になっているケアマネさんの素早い対応、的確な指導（アドバイス）があったからと心より感謝している。それには、どんなことでも安心して相談できたこと、お願いしたことはすぐ結果を出していただいたこと、ハードな仕事なのにいつも笑顔で接していただいたことがとても大きい。おかげで老人ホームも体験できた。

私はこの機会に改めて福祉の現状を勉強させてもらった。西暦二〇〇〇年四月、日本で介護保険法が施行された。その時出来た新しい職種が、介護保険支援専門員（ケアマネージャー）だという。役割は高齢者が病気、障がいが生じた時、電話一本で飛んできて、家族、本人と相談して、速やかに対処してくれる。この職種は世界で日本だけだという。

勿論政府が福祉先進国へ職員を派遣して勉強させ、各国の「いいとこ取り」で作った制度を施行して十四年、ケアマネ職員はますます忙しくなりそうだ。

高齢者本人が、役所で手続きするのはなかなか難しいからケアマネさんの活躍が頼みの綱である。

このような福祉制度のある日本の高齢者は、とても恵まれていると思った。
『老い』は誰にでもやってくる。消えかけた灯を、制度を上手に利用して、死の直前まで楽しく生きることを学びたい。

▽講評△

介護保険法施行により、要支援・要介護認定者の援助、サービス利用のためケアマネジメントという手法が導入され、その要となる介護支援専門員（ケアマネジャー）という専門職ができました。

介護支援専門員は、ご利用者の相談を受け、生活全般を把握し、介護保険や様々なサービスや援助が受けられることで、自立した生活が営めるように支援します。まさに「頼みの綱」という存在であり、お互いの信頼関係があるからこそ、共に楽しく生き、学びあえる人生になることでしょう。

優秀賞

「立派な煮豆の完成」

飯原　茂行　様

感動介護を行った職員

社会福祉法人清琉会
玉川グリーンホーム　笠井　律子さん

妻を亡くしひとり暮らしとなって1年、どうにか生活に慣れてきた。でも衣食住がままならない状況を案じ、四男の嫁が玉川地域包括支援センターに相談し、協力を得て介護保険の認定申請をし、要支援1の認定で介護予防訪問介護サービスを受けることとなった。

平成26年9月より、週2回調理を中心にサービスを受けるようになって早1年8か月、小瀬村サービス提供責任者を始め、ヘルパーの方々のお世話になっています。

9月3日は笠井ヘルパーの担当でした。私がお願いした料理の中に煮豆があり、煮豆は時間がかかるとのことで、最初に手を掛けられました。他の料理は1時間ででき上がりましたが、煮豆は固くでき上がりませんでした。材料の豆は、亡くなった妻が生前購入したもので2年くらい経過していました。そのためになかなかやわらかくならなかったものと思い諦めました。

煮豆の料理は諦めていたところ、一旦帰られた笠井ヘルパーが休み時間中にもかかわらず再度見えられ、でき上がりを諦めていた豆と残りの豆を持ち帰り、サービス提供責任者や他のヘルパーと検討するとのことでした。

翌日、小瀬村ヘルパーが見えられました。笠井ヘルパーが豆を自宅に持ち帰り、7時間かけて煮込んだという豆を持参してくださいました。立派な煮豆の完成でした。私は、笠井ヘルパーの努力に感謝し、小瀬村リーダーや同僚のヘルパーの方々のヘルパー精神に大変感動いたしました。そして、妻の霊前に煮豆を供え、このことを報告しました。本当にありがとうございました。

▽講評△

最愛の妻を亡くして一年、飯原さんはどんな気持ちをかかえて暮らしてきたのでしょうか。妻がのこした煮豆がやわらかく出来あがったこと、奥様の思い出とともに笠井さんの気持ちに接し二重の喜びだったのではないでしょうか。家族を亡くした哀しみは誰にも埋めることはできないでしょうが、その一端が顕れた時には大切に接することが介護の大きな役割だと思います。保険のルールには硬い側面も必要なことは承知の上ですが、人生の特別な場面では、できあがった煮豆のようなやわらかな支えが新たな活力を生む時もあり、そこに人と人の支えあいの意味もあると強く感じたエピソードでした。

優秀賞

「笑顔の中にあるもの」

山口　舜介　様

感動介護を行った職員

有限会社ダーム　ダームメディカルケアサービスつきみ野
後藤　和彦さん、高見　和則さん

『介護施設の職員が暴行を行った』、そのニュースを聞いた時、思わず「えっ」と声を出してしまった。

最近、介護職員という人達はあまり良いイメージを持たれていないと思う。介護施設の職員による入居者に対する暴行などの介護・支援とはあまりにかけ離れた行為や働いた割に給料が少ないなどの経済的な問題等が良くない認識に繋がっているからだ。

そうした中、産まれた時から祖父の介護をヘルパーの職員さんにしてもらっているのを見て来たので、介護という職務を全うしている職員の方もいると思った。そこで、許可を取り見学という形で職員の方達の移動介護という介護に同行させてもらった。

今回同行させてもらった職員さん達はタカミさんとゴトウさんの二名、利用者さんはヤナギサワさん。ヤナギサワさんは産まれつき脳に障害を持っていて、言葉を話せず、車椅子を使用している。なので、外出は休日を除くと週に一、二回程度。その一、二回を今回はタカミさんとゴトウさんの二名で行う。

外出と言っても駅に飲み物を飲みに行くだけだが、その道のりは往復で5㎞、長い坂道がある。実際に歩くと下りでも疲れる。こんなに疲れるのかと思っていた時ある出来事が起きた。それは飲み物を駅に着

いたので買って飲んで頂くという時に起こった。
ヤナギサワさんが笑った。
介護を終えた帰り道、2人が語った。
「気持ちが大事」、「自分にとっての1時間が、ヤナギサワさんにとってのそれ以上だったらとても嬉しい」
その言葉を聞いて、なぜヤナギサワさんが笑ったのか僕はその時、初めてわかった様な気がした。
今回、同行させて頂いて思ったことは、良くないイメージを持たれている中、そこには確かに、利用者さんを思いやり、しっかりと介護している職員さんが居た、ということ、ただそれだけです。

▽講評△

介護職員の暴行・虐待というニュースを聞いて衝撃を受けた16歳の筆者が、自らヘルパー職員の介護に同行し、介護という職務への率直な思いを述べられた非常に意味深い作品であったと思います。同行を終えて彼が最後に述べた、「そこには確かに、利用者さんを思いやり、しっかりと介護している職員さんが居た」という言葉は、この仕事に従事する介護職の思いをきちんと汲んで下さり、その必要性が伝えられたと感じた部分でした。

優秀賞

「入浴サービスありがとう」

田中　栄子　様

社会福祉法人湘南福祉協会
湘南ケアセンター追浜居宅介護支援事業所

感動介護を行った事業所

私は、右半身マヒの夫と生活しています。だんだん筋力が低下してきているので、今まで出来ていた事が出来なくなり夫がカンシャクを起こします。

その都度、身体を支え頑張って介護していますが、私は身体が小さくよろけてしまいます。

夫の介護をしている時、昔の事を思い出し涙がこぼれ落ちますが、夫は私よりもっと辛い思いをしている事がわかり夫の負担を少しでも軽くし、生活ができればと介護サービスを受けるように致しました。

入浴サービスの介護を受け、きれいに身支度と健康管理をして頂き元気がでました。感謝しています。

ケアマネさんが、夫と私の身体の様子や困っている事を聞いて下さり相談に乗って下さいますのでとても心強いです。

サービスを受けるようになって、気持ちに余裕が持てるようになりました。夫にもやさしく接することが出来るようになりました。

笑声も出て、二人でお互いを労わりながら頑張って生活を送りたいです。

▽講評△

お互いをいたわりながら毎日の生活を過ごされているお二人の様子が目に浮かびます。

小さい体で大きな体の夫を一生懸命介護されている妻、妻のしんどさを受けとめ、入浴のサービスの提案をしたケアマネさんの存在、言いたいことを上手く伝えられない利用者のもどかしさを理解し心身ともにリラックスできるようなサービスを提供している事業所職員のことなど、心が温まるエピソードです。日々の介護のつらさから解放される、ホッとできる一時とはこのような人と人がつながる瞬間のことを言うのでしょう。

佳作

「息子の結婚式にでられた！」

匿名希望

感動介護を行った事業所

社会福祉法人親善福祉協会
介護老人保健施設リハパーク舞岡

世界を舞台に仕事をしていた夫が、平成22年、23年と2度脳出血で倒れ、歩行不能、意識状態もやや低下した状態で、病院から老健に移り、ケアーを受けておりました。

こんな折、夫がかわいくて仕方がなかった息子の結婚式が決まったのです！しかし、私は今の状態で、結婚式に参列することは、非常に困難だから、母親としての私だけが参列するしかない！と自分に言い聞かせ意を決して、夫に息子の結婚式が決まったことを伝えました。すると夫は、しばらく無言でしたが、『うれしい！』と一言発声し、嬉しそうに笑みを浮かべたのです。これを見て私は、夫の為にも息子の為にもぜひ結婚式に参列させたい！思い出づくりをしたい！という気持ちが強く湧いてきました。

そこから、私は行動を開始しました。長時間の参列に耐えられるようにストレッチャーから車椅子への移乗、モーニングの着付けの練習など、施設の職員と一緒になって、訓練を続けました。また結婚式場までの道順、時間配分など繰り返し練習をしているうち、何とか難題を克服できそうだと感じるようになりました。結婚式まであと何か月、何日と期待と不安とが交錯しながら、当日結婚式を迎えました。モーニングを車に忘れ、式場から借りるなどのハプニングはありましたが、父親として式場の前方で車椅子に堂々と座り、胸にブートニアをつけ、記念写真を撮ることが出来たのです。素敵な思い出です。施設をはじめたくさんの方にお世話になりました。

『みなさん！本当にありがとう！』と大声で叫びたい気持ちでいっぱいです。

佳作

「介護の真髄」

矢島　康代　様

感動介護を行った事業所

特定非営利活動法人楽　ひつじ雲

私の別居の母（要介護2・85才）は、3年前に腰部脊椎管狭窄症に加え、2度の圧迫骨折により車イス生活になり、これがきっかけで認知症の周辺症状が多数出始め、特に夜間トイレ通いが50回以上の日も多々ありました。

心臓病やガン等たくさん持病があった父は、老々介護に疲れ果てた末に昨年夏に他界しました。

父が亡くなる2ヵ月前に、小規模多機能型介護施設「ひつじ雲」と契約し、トータルでサポートしていただきながら、私も実家に泊まる回数を増やして対応しました。

昨年父が自宅トイレで心肺停止状態で倒れた時に母は寝ていたので、母を自宅に残し救急車に乗る事になりパニック状態でした。

でも、「ひつじ雲」に事情を話してお願いすると快く利用日ではなかった母を介護して下さったおかげで安心して父に集中する事ができ本当に助かりました。

父は奇跡的に脳死状態ながら約1ヵ月半生きて穏やかに息を引き取りました。

その間、母が泊まりの時は、トイレ回数が50回位にもなるにもかかわらず、根気よく介護して下さったり、母が淋しくならないように気遣って下さったりとスタッフが一丸となってサポートして下さり、本当に感謝の気持ちで一杯です。

今では、母は夜もぐっすり眠れるようになり、父の死も受入れる事ができて穏やかな日々を過ごしています。

私自身も「ひつじ雲」のスタッフの方々のおかげで我家の家事と実家での介護に頑張る事ができてい

ます。
本当に介護の真髄を見た思いです。
ありがとうございます。

佳作

「生きていくこと」

三枝木　美歩　様

祖母が亡くなって7回忌。
祖父を病院で最期看取ってから、たった一人になったお義母さんを必ず自宅で看取ると決めていた母。そのためには、私たち家族の協力が必要だった。認知症であり、糖尿食に気を遣わなければならない状態だった祖母。正直、介護すると聞き年ごろだった私はヘルパーさんが自宅にいることで、リビングでくつろげない。と、母に愚痴をこぼすこともあり、あまり乗り気でなかった。
だいたい、祖母と母はもともと仲が良いほうではなかったので、祖母がいつも愚痴を私にこぼしていた。それなのに、なんで?とゆう、気持ちのほうが多かった。
夕方、友達との待ち合わせがあり、急いでいるときに限って決まって徘徊が始まる祖母。もちろん、自宅には私しかいない。迷子になり、近所の方に連れまわしてもらったこともあった。何度、いなくなってほしい。と思っただろう。
祖母の介護について何度も家族で会議をした。
家族の負担を考え、ショートステイも利用した。
でも、かえってくると食欲がおちていたり床ずれができていて、いよいよ寝たきりになった時に、ヘルパーになった母に手伝ってほしいといわれ、ある日手当てを手伝った。
「痛い、痛い」と、つねったり叩いて言う祖母に根気強く「大丈夫」と、手当てをする母。「本当は医療行為だからヘルパーさんはできないけど、日曜

日は看護婦さん呼べないし、家族だから、おばあちゃん、よくなるようにしてあげなきゃね。」と。

そして、連携のとれたいつも温かく声をかけてくれた看護婦さんや巡回の医師の先生。入浴サービス。そんな介護の現場を見て、いつしか私もヘルパーを目指そうとしていた。

8年の介護が続き、いよいよ90歳になった祖母はだんだんと衰弱していき、最期は唾液がなくなりいよいよ点滴のみでの栄養となった。でも、食べることが好きだった祖母だから、母は最期まで口から物を食べさせてあげたいと、時間をかけ、毎日祖母との食事に向き合った。

お風呂が大好きだった祖母。

最後にお風呂に入れてあげたい。そんな願いを母が言うと医師、入浴サービス、看護師のみんなが、またまた連携をとり微熱のつづいた祖母に負担のない程度に入浴をしてくれた。

最期が近づいてきた日。

「おばあちゃん、私もうすぐヘルパーさんになれるんだ！そしたら色々手伝えるからね。おばあちゃん、なにかほしいものある？」そう聞く私に、「そうか、そうか…うれしいね。うれしいね。なにかうんまいもの…がいいね。」そう微笑んだ会話を最後に亡くなった。

それは、私がヘルパーの学校の入学式、当日の朝だった。

最初は、悔しくて仕方がなかった。もう少し待っててくれたらたくさんのことをしてあげられたのに。でも、そう思えるように私の考えを変えてくれたのは、祖母の介護にかかわってくれたすべての人々のおかげだ。

おばあちゃんにできなかったことを。私が家族として、介護の現場から学んだことを今度は私がしてあげる番なんだ。と心に決めて私は、その後無事、

学校を卒業しお世話になった介護の現場に自分の経験を生かし、足を踏み入れた。

あんなに嫌だった介護が、おばあちゃんに対して感謝の気持ちに変わった。それは、介護の現場にいたすべての人が、一生懸命に向き合って祖母の『生きる』一瞬一瞬を大切にしてくれたからだと思う。

佳作

「心に残る介護」

匿名希望

感動介護を行った事業所

医療法人横浜博萌会
西横浜国際総合病院在宅医療センター
訪問看護ステーションにしよこはま

当二〇十五年、二月三日、母享年八十二才で、尿道癌、子宮癌の為、死去致しました。

遡る事、五年前、「純ちゃん、尿に出血があって、尿をする時、痛いのよ。」娘と私は、病院へ何度も行くことを勧めましたが、「膀胱炎だから、薬、飲んでれば治るわよ。」結局、五年もの間治療せず、薬でなおしていました。が出血や尿の痛さは、時折りあったようです。

二〇十四年、八月、「純ちゃん、病院一緒にいって。」母が言う位ですから、よっぽど痛かったのでしょう。

診断の結果、尿道、子宮の合併癌、レントゲン写真をみて、母も私も頭が真白になり、しかも末期癌、選択肢は三択、「手術、放射線治療、膀胱にくだを通し、尿の排泄を助ける事、これはずっと、はずせず、つけたままの生活」でした。母は治療拒否を希望し、痛み止めを飲むという方法をとりました。薬は徐々に強くなり、二〇十四年十二月には、服用できなくなり、即、入院。先生方も止める中、本人は自宅療用を希望し、二〇十五年、一月十五日、退院

しました。点滴をしたままの状態での退院の為、これ以降、私と訪問看護師さんと、週に二、三回見て下さる先生方での介護に当たりました。

私は、介護という経験を初めて行ない、それは、口では言い表す事の出きない位、大変でした。痛み止めの点滴は、常にとれない為、時間をみては、調節、オムツ替えも、尿が出なくなると危険な為、常に、交換時にはチェック、食事も余り取れないので、ゼリー状の物、としていました。水分も常に必要です。一番慎重さを期したのは、薬の服用、少しでも間違えれば命取りに。

その合間に、先生方の往診。看護師さん方の御協力、母は、毎回不安なのでしょう。「看護婦さんくると安心だわ」と常に言っていました。特にとても辛くなると、私に心配かけないよう、「看護婦さん呼んで」…と。「大丈夫ですよ。ほら、いつもみたいに笑って笑って」この言葉がどれだけ、母の心の支えとなったか、そして私の笑顔になる一瞬だったか…。この状態が半月続き、亡くなる前、三日前は、「本当にありがとう。ごめんね。」しか言わずまるで私が小さな子供だった頃のように、ほっぺや頭をなでてくれました。又、亡くなる前は、なんとしても、母のそばを離れられず、十二時過ぎまで、一緒にいました。表情もなく、目も見えないでしょうに、私の方を「ジー」っとみていました。

今、思う事は、介護を初めて経験し、その大変さ、と同時に、先生方や看護師さん方の深い愛情と、心のこもった介護、「なんてすばらしい、御職業なんでしょう。」と大変感動し、それと共に、尊敬の念で一杯です。どんな時でも、患者さんの方に笑顔で接し、その苦痛を柔らげて下さる。本当にすてきです。

私が最後まで、介護をしてこれたのも、皆様方の連携プレーが取れてたからです。今思う事は、大変

でしたが、家の畳の上で、みとった事、亡くなるまでの間、精一杯の介護ができたこと、私は悔いなく見送ることができました。先生方や看護師さん方には、深く感謝しています。

今は、娘に支えられ、心静かに毎日を過ごしています。

佳作

「おつかれさん」

感動介護を行った事業所
株式会社T&Hサポート　おうちDE介護
遠藤　敏江　様

人の為に尽くし続けた母。厳しかった夫を広い心で助け、朝早くから暗くなるまで働いてきた。

「山の作業は寂しくないの？」といつか尋ねたら『人間は所詮独りよ』とつぶやいていた。

生きがいは無いのかな、そう思っていた母が九十四歳を過ぎ歌うようになった。息子も聴いたことのない九十年前、小学一年生当時の歌。人はいくつになっても成長できることを教えてくれた。

「笑顔笑顔」と私は言い続け母の背中を押した。介護をしていて時に何気ない言葉がどれほど傷付けていたか気付かされた。そんな時、私は母の心を訪ね「ごめんなさい」と反省した。母は頑張っているのに。一針一針心を込めて縫ったあづま袋〝私の為に〟という言葉に感動で涙がいっぱいになった。

週三日〝おうちDE介護〟への通所。人の輪の中に入った経験が乏しい母は当時緊張から腹痛を訴えるほどだった。通所から一年七ヶ月。社長が迎えに来てくれると、まるで恋をしているようなとびきりの笑顔。

「一日がんばってね」と送り出すと手を振る姿は皇后陛下に見えた。

やせ細った体、物言わぬ静かな母は人の心を見抜け耳はしっかり言葉を聞いている。亡くなる三日前、家族への言葉を頂戴した。一人一人に対し的確な言葉。七十を過ぎた息子へは『働けよ』
私への言葉は『よく働いたな、ちったあ休めよ』だった。
自分に対しての言葉は
『畑で作物をつくり百姓一生やってきた。ちと休むだ』
ああ、私も母のように生きていこう。母の生きる力が私に力を与えてくれる。
旦那と意見が偶然一致し選んだデイサービスでお祝いをしてくれたお誕生日会の写真は母の遺影になった。見たことのない自然な笑顔で毎日家族を見守ってくれている。

佳作

「短歌」

田中　可夫　様

感動介護を行った職員

社会福祉法人電機神奈川福祉センター
新杉田地域ケアプラザ　瀬川　光代さん

先を行く杖に引かれて
ケア通い
今日わ　あの人
くるかも知らむと。

田中　可美（よしはる）

佳作

「小さな出来事でも感動」

木村　敏男　様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンディ

サロンディ小田原高田

送迎の運転手さんが、きょうの体調を聞いてくれる。うれしいスタートだ。施設に着くまでの10分ほどは、利用者の交流会のようだ。昼食の話、自分のこと。社会の出来事など話題になる。

施設に着くと、スタッフ全員、笑顔で迎えてくれる。利用者も笑顔で「よろしくおねがいします」と。月曜日午後のクラスの利用者とスタッフが合流する。

席に着くと、机の上に一枚のチラシ「感動介護エピソード募集」が目に入ってきた。利用者のみなさんに「ここに来ていて、感動したことがありますか」と問いかけたら「ない！」と冷めたい？返事。みんな、楽しそうにしているのに・・・。「わたしは、仕事と思ってきているのよ」と答えてくれた80代半ばの彼女。

この小規模施設が開所して1ヵ月が経ったときから、わたしは週一回利用している。すべてが、いままで経験したことのない世界だ。一緒にすごす利用者も、スタッフも、リハビリも新鮮だ。少し疲れるが、利用者やスタッフに励まされて、ちょっと背を向けていた施設通いもつづいている。みんなに感謝である。

わたしを支えてくれる妻に「ありがとう」の心を添えて、施設での小さな出来事を話す。他の利用者のみなさんは、どうしているのだろうか。と思うこのごろである。

佳作

「父への恩返し」

株式会社ユーティー
デイサービス　サニーテラス
相澤　香織　様

私が介護の仕事を始めて約二年。まだまだ浅い日々の中で私の人生に於いて最も大切で私にしか出来ない貴重な体験ができた。私の目標は、自分の親も来てほしいと思えるデイサービス。私は「サニーテラス」と縁を頂き、初めてこの仕事の深さを教わった。いつも考えるのは「介護する」ではなく利用者様の為に私達は何が出来るか。そして、その一瞬の笑顔の為に職員一人一人が想いを持って仕事をしている。私は父にも来て欲しい！と思うようになった。

元気だが人と話す機会も少なくなり、足腰に不安を感じデイも初めての父だったが一瞬で気に入ってしまった。利用者様が活き活きと自分のやりたい事をやっている姿。文化刺繍、達磨作り、中国語。お互いの特技を先生の様に皆に教え、大笑い。また足が弱っている父に歩行訓練の指導し家でできるメニューを考えてくれる機能訓練士。父は「80歳から新しい事を始めてもいいんだね。僕は絵を描いてみたい。仏語検定二級の勉強もしたい」と目を輝かせて人生の目標を見出すことができた。それからは熱心に絵を描き、皆さんと大笑いし、時には若い頃の話を得意気にし「一日が楽しくてあっという間だ」と通うのを楽しみにしていた。また私の仕事を横目で見ながら母に「娘は皆さんに慕われて本当に楽しそうに良い仕事をしている。安心だよ」と目を細めて言っていたそうだ。

そんな元気だった父が一ヶ月後持病の為急死してしまった。父との別れは突然だったが、私は最後に大きな親孝行ができた様な気がする。社長も「悲し

いことだけど相澤さん自身の夢も叶えられ、お父さんもここに通えて幸せだったんじゃないかな。我々も色々な事を教えてもらったよ」と言って下さった。今でも仕事をしているといつも父がそばに居る様な気がする。父にもっとしてあげたかった事を今の私の大切な利用者様にしてさし上げたい。それが父への感謝と恩返しと思い、これからも楽しく私らしく仕事をしていきたいと思う。

佳作

「笑顔と笑顔」

花山　貴子　様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンデイ

機能訓練型デイサービス　サロンデイ下溝

「貴子さん、お迎えに参りました。」とドライバーさんの声で、「機能訓練型デイサービスサロンデー下溝」に出かける私です。

四年前、側湾症の手術、その後、二回の右肩の手術をしたが、私は、歩行困難となり、リハビリの生活が続いています。半年前頃、「何で私ばかりが・・・」と落ち込み、外出が出来なくなってしまいました。この「うつ」状態を救ってくださったのがサロンデーの指導員さんの笑顔でした。サロンデーに到着すると、所長さんをはじめ、スタッフの

方々が笑顔で迎えてくださり、思わず私も来て良かったという気持ちを笑顔で答えるのです。

マシンを使っての訓練が始まると、「貴子さん六番のバイクご案内します。」というスタッフの大きな声、それに加えて、体調に合わせたマシンの調節で、体の負担にならず、機能の回復を図っています。個別指導は、専門の指導員さんにより、私は、杖を使っての歩行、肩の力をつける訓練をしていただいています。メニューが終わると、皆さんに手を振って見送られます。ちょっといい気分になり、ドライバーさんと帰路につきます。

訓練を重ねるうちに、杖をついて散歩に出られるようになってきたこのうれしさは、言葉に表せない私です。

一日も早く杖が無くても歩けるようになり、外出をして、孫の和太鼓の追っかけをするという目標を持ち、日々を頑張りたいです。

▽第４回かながわ感動介護大賞　応募作品の総評△

第４回かながわ感動介護大賞には29件の応募作品がありました。応募数は毎回変動がありますが、本年度は例年に比べてやや少ないのが残念でした。そんな中、「昨年も応募しました」という方もおり、この活動を楽しみにしていてくれていることを感じとることができました。応募作品には、老後の生活の様子やご両親等に関するさまざまな思い出が綴られ、すべての作品を掲載できないものかという思いを強く持ちました。改めて、応募者の皆様や関係者の皆様に、表彰選考会を代表してお礼申し上げます。

私は、毎年の選考時に無着成恭先生の「生活綴り方運動」を思い出しています。感動介護大賞のエピソード作成には文章力も必要ですが、文学や芸術活動とは違います。毎日の何気ない生活の様子を書いてみること、その中に楽しみを発見することです。

100歳の詩人、柴田トヨさんの詩集「くじけないで」は、一人暮らしのトヨさんに、息子さんが広告の裏に日々の出来事を書き留めることをすすめたことから始まったと紹介されています。

日々の生活の様子、老後の暮らしや介護への思いを書き取ることからはじめましょう。そして、その発表の場が感動介護大賞です。このような活動が、やがては福祉文化となって花開くことを願っています。

かながわ感動介護大賞表彰選考会座長　峯尾　武巳

○かながわ感動介護大賞表彰選考会委員名簿（◎…座長）

東海大学　准教授　東　奈美
特定非営利活動法人
神奈川県介護支援専門員協会　副理事長　石田　貢一
公益社団法人　神奈川県社会福祉士会
福祉サービス第三者評価事業運営委員会　副委員長
高島さち子
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会　会長　豊田　宗裕
田園調布学園大学　講師　増田いづみ
神奈川県立保健福祉大学　教授　◎峯尾　武巳

○かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
神奈川県特定施設等連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県保健福祉局

○かながわ感動介護大賞協賛法人（５０音順）

一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人横浜市保土ケ谷区医師会　保土ケ谷区医師会訪問看護ステーション
医療法人社団相和会　渕野辺総合病院
神奈川福祉事業協会
株式会社アオバメディカル　あおば福祉サービス
株式会社朝日ケアコンサルタント　介護付有料老人ホームオーシャンプロムナード湘南
株式会社いわしや西方医科器械
株式会社ガスター
株式会社ケアバンク
株式会社サロンデイ
株式会社翔栄　メープル訪問介護
株式会社安江設計研究所
株式会社若武者ケア
川崎市老人福祉施設事業協会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益社団法人鎌倉市医師会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
合同会社ＭＫウェルフェア　デイサービス集い場『想』
シニアウイル株式会社
社会福祉法人足柄福祉会　特別養護老人ホーム草の家
社会福祉法人厚木慈光会　睦合ホーム
社会福祉法人育生会
社会福祉法人一石会
社会福祉法人一燈会

社会福祉法人永寿会　特別養護老人ホームかりん
社会福祉法人小田原福祉会　高齢者総合福祉施設潤生園
社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
社会福祉法人鎌倉静養館
社会福祉法人共生会
社会福祉法人栗山会　特別養護老人ホームやまびこ荘
社会福祉法人敬心会　栗原ホーム
社会福祉法人啓生会　特別養護老人ホームはまゆう・たんぽぽ
社会福祉法人幸済会　特別養護老人ホームかわしまホーム
社会福祉法人心の会　特別養護老人ホームさくらの里山科
社会福祉法人三栄会
社会福祉法人湘南福祉協会
社会福祉法人松緑会　松みどりホーム
社会福祉法人清琉会　玉川グリーンホーム
社会福祉法人積善会　ルビーホーム
社会福祉法人中心会
社会福祉法人道志会　道志会老人ホーム
社会福祉法人藤心会　特別養護老人ホームふじの郷
社会福祉法人東洋会
社会福祉法人藤嶺会　特別養護老人ホーム弥生苑
社会福祉法人日本医療伝道会　衣笠病院グループ
社会福祉法人百鷗　介護老人福祉施設　葉山清寿苑・逗子清寿苑
社会福祉法人八寿会　特別養護老人ホームみどりの園
社会福祉法人ハマノ愛生会
社会福祉法人福寿会
社会福祉法人二津屋福祉会　ロゼホームつきみ野
社会福祉法人母子育成会

社会福祉法人三崎二葉会　ケアセンター南下浦羊の家
社会福祉法人大和清風会
社会福祉法人湯河原福祉会　シーサイド湯河原
社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
社会福祉法人横浜長寿会　特別養護老人ホーム上郷苑
城南信用金庫
東洋羽毛首都圏販売株式会社
トヨタカローラ横浜株式会社
有限会社みどりケアサービス

Slf
Smiley Life Forever
わたし　スタッフ　お客様　みんなの笑顔のために
一般財団法人 シニアライフ振興財団

M2M Technologies Inc
Open Network for Everyone

ポンジュース
株式会社えひめ飲料東京工場

安全対策.com
株式会社ＬＩＢＥＲＯ

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

ともにほほえむ

CICO
CORPORATION

神奈川県済生会

社会福祉法人 神奈川県匡済会

介護老人保健施設
四季の森
社会福祉法人 恵愛会

社会福祉法人セイワ
介護老人福祉施設みやうち

社会福祉法人たちばな福祉会

竹生会

高齢者総合福祉センター
ヒューマン
HUMAN
社会福祉法人 富士美

東海アルミ箔株式会社

愛コープ港北

すいとぴー

※協賛法人一覧及びロゴは、各協賛法人の希望する方法で掲載しています。

－ご協賛いただきありがとうございます－

随時受付中！

かながわ感動介護大賞
感動介護エピソード募集

今度はあなたの「感動」介護のエピソードを
伝えてみませんか！
応募は随時受け付けています。
職員の方の「感動」介護のエピソードも
募集しています。

ご応募お待ちしております。

※詳しくは、
県ホームページ
「かながわ感動介護大賞エピソード募集」
をご覧ください。

かながわ感動介護大賞実行委員会

神奈川県

保健福祉局福祉部高齢社会課
〒231-8588 横浜市中区日本大通１ 電話(045)210-4846(直通)